

# 忍者企画展展示品一例

みょうちんむねかね  
明珍宗周忍者鎧



この忍鎧は「少年忍者風のフジ丸」の終わりに初見良昭宗家と本間千代子さんの忍術解説「忍術千一夜」で後に飾られていた鎧である。「明珍」とは甲冑の名門流派であり、とても軽く驚くほど堅牢にできている。この鎧は輸送に便利であり屈伸が楽である。戦国時代から江戸末期まで上級侍も使用している。

手裏剣各種



忍者の手裏剣は、流派によっていろいろな形をしている。短刀の形のもの、棒の剣のようなもの、カンザシ型のもの、十字形のもの、角まんじ、八方形のもの、折りたたみでできるものなど、いろとりどりである。手裏剣は、重くてぶ厚い物より、薄い物の方が良く飛び持ち歩きに便利である。

忍者刀



忍者刀の特徴

刀身：一尺六寸～一寸くらいと短く、それを普通の大刀の鞘に潜ませている。

鍔：特別に強い。武具・道具の用にも耐える。

鍔：一応は花卉の形だが、大きさや模様、細工は様々である。

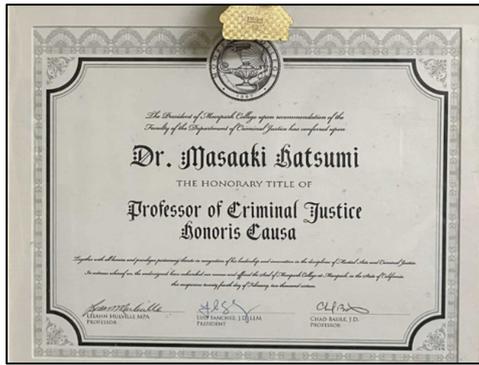
下げ緒：九尺（久尺とも書く）と長い。

きよけつしよげ  
距跼涉毛



戸隠流独特の忍具である。鉄輪を空に飛ばし攻撃したり、からめて動きを止め片鎌槍の部分を使ったりする。鉄輪、片鎌槍、体は、山谷を自由に駆け巡る麒麟の如く、変幻自在に動くのである。

モアパーク大学犯罪学名誉教授



アメリカのモアパーク大学では武神館忍法を正式なプログラムとして取り入れられています。看護学部では患者さんのパワハラやセクシャルハラスメントを未然に防ぐため、ケアする側もケアされる側も安全に安心してコントロールする教科として武神館忍法が取り入れられ、高く評価されています。

棒手裏剣各種



棒手裏剣の持ちようは、剣先を指先に向けて持ち、そのまま投げる直打法、剣先を手前に返して持ち、投げた空間で剣を半回転させて刺す半回転打がある。

てかぎ  
手鉤



手鉤と足鉤は木にのぼる忍具であるが、いろいろな使い方をする。するどい爪がついた手鉤は、相手をつかんでキズつけたり、敵の刀を受けたりする。高い木にのぼるときや穴をほったりもする。

かぎなわ  
鉤縄



「忍びの六具」(編み笠、鉤縄、石筆、薬、三尺手拭、打竹(火付具))の一つである。縄の先に鉤がついており、投げたりして高所や人に絡ませたりする。壁、崖、谷を渡ったり、人を捕えたりする。